

国際農研CCFS研究会ワークショップ

# 気候変動とコロナ禍の食料需給への影響 —不確実性下のフードセキュリティ—

世界の平均気温は、18世紀半ばの産業革命前に比べて約1.2°C上昇しました。気温上昇は異常気象の頻度増加をもたらす、食料栄養安全保障に甚大な影響を及ぼす可能性があります。気候変動への適応にかかるコストと、気候変動が食料と栄養の供給に与える影響に焦点を当て、これまで国際農研および科研費で実施されてきたプロジェクトで得られた成果を気候変動が農産物市場に与える影響にご関心をお持ちの方々と共有したいと思います。さらに、昨年来大きな問題となっているCOVID-19感染拡大が、将来の食料供給に与える影響についても報告いたします。

開催日時

2021年

12月17日(金) 11:30~16:15  
(11:00受付開始)



オンライン開催

定員 500名

参加  
無料

## プログラム

11:30 開会挨拶

「食料需給分析の過去・現在・未来」 小山 修 (国際農林水産業研究センター)

11:55 特別講演

「コロナ禍がアジア地域の食料・栄養バランスに与える影響」

David Dawe (国際連合食糧農業機関(FAO) アジア太平洋地域事務所)

●講演者の略歴●

デイビッド・ダウェー氏は、タイに所在する国際連合食糧農業機関アジア太平洋地域事務所(FAO-RAP)の上級エコノミスト・戦略政策アドバイザーです。氏は以前、ハーバード大学国際開発研究所(HIID)と国際稲研究所(IRRI)に勤務し、アジアの食料政策に多く関わり、貿易と市場、国内価格政策、生産と天然資源(肥料、水資源、気候)および栄養に関わる書籍と論文を多く出版してきました。Global Food Security 誌の前編集者でもあります。



セッション1: 気候変動への適応 (座長: 古家 淳)

12:30 「世界の穀物生産における気候変動適応コスト」 飯泉 仁之直 (農業・食品産業技術総合研究機構)

12:55 「気候変動研究における時系列分析」 中谷 朋昭 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

13:20 「食料供給安定性の要因分解分析」 澤内 大輔 (北海道大学大学院農学研究院)

13:40 休憩

セッション2: 気候変動とコロナ禍の影響 (座長: 中谷 朋昭)

13:55 「栄養に向かうフードセキュリティ概念と世界食料需給モデルの射程」 草野 栄一 (国際農林水産業研究センター)

14:20 「コロナ禍が世界各国の食料・栄養供給に与える影響」 古家 淳 (国際農林水産業研究センター)

14:45 「気候変動のインディカ及びジャポニカ米市場への影響」 古橋 元 (農林水産省農林水産政策研究所)  
小泉 達治 (経済協力開発機構(OECD))

15:05 休憩

セッション3: パネルディスカッション (座長: 飯山 みゆき)

「気候変動とコロナウイルス感染拡大が食料および栄養供給に与える影響とその対策」  
登壇者全員参加

16:05 閉会挨拶

長谷川 利拡 (農業・食品産業技術総合研究機構)

申込フォームより  
お申込みください

<https://www.jircas.go.jp/ja/workshop/2021/e20211217/entry>

問い  
合わせ先

国際農研-CCFS研究会ワークショップ事務局 茨城県つくば市大わし1-1  
Email: [jircas-ccfs@ml.affrc.go.jp](mailto:jircas-ccfs@ml.affrc.go.jp) URL: <https://www.jircas.go.jp/ja/form/inquiry>

